

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成31年 3月31日

事業所名 第1キッズゆうあい

保護者等数(児童数) 16 回収数 14 割合 87%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10	4				・利用児童の多い日には一部の児童を屋外での活動にするなど、スペースが狭いことでのストレスを与えないようにしていく。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	12	1		1		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	8	6			・雨の日は前階段が濡れて危ない。滑り止めがほしい。(2)	・事業所が2階にあり屋外階段でアプローチするが、往来しづらく雨の日は階段が滑りやすく心配。2019年6月に屋外階段上に雨よけの屋根を設置予定。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	14					
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	14				・毎日のメニューが決められていていいと思います。	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3	9	1	1		・隣接する公民館での活動を推進し、障がいのない子どもと接する機会を増やしていく。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	13	1				
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	14					
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14					
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	11	2	1		・保護者同士、子ども同士の名前が分かると声を掛けるきっかけになって良いと思う。(子どもから他の友だちの名前を覚えてくれることがないので)	・2018年度から保護者参観日の日を1年に1回設けており、今後もこのような機会を増やしていきたい
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	11	2		1	・苦情を言ったことがないため分からない。	
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	13	1				
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	14					
	14 個人情報に十分注意しているか	13	1				
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	13	1			・地震や災害の時の避難場所を再度教えて下さい。	
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	14					
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	14				・いつも通所を楽しみに通っています。	
	18 事業所の支援に満足しているか	14				・休日などはその時々でイベント情報を加味しつつ、サプライズのような活動があることがワクワク感があってとても良いと思います。	

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせる実施されることが想定されている。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成31年 3月31日

事業所名 第2ジュニアゆうあい

保護者等数(児童数) 15 回収数 10 割合 66 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	9			1		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	8	1		1		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	2	1	1	・建物の構造上不可能だと思うので仕方ないと思う。 ・普段送迎をお願いしているのであまり様子が分らないですが、怪我などしないように室内を整えていると思います。	・2階建ての住宅を事業所として活用しているため、玄関に段差がある。肢体不自由の利用者がいないために、不都合はほぼない。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	10					
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	8	2			・自立に向け料理や洗濯等色々な活動を取り入れていただきとても満足しています。 ・食育や創作、調べ学習等、日々工夫した活動を行っていただき、ありがとうございます。家ではできない事も、ゆうあいでの活動は定着しています。	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	6	2	1	・親としては、この項目は特に重要視していません。	
保護者への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	10					
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	10					
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	10					
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	6	3		1	・参加したことがないので、分からない。 ・母親の会に参加した時に親同士で話ができとても楽しかったです。このような機会が増えるとうれしいです。	・2018年度から保護者参観日の日を1年に1回設けており、今後もこのような機会を増やしていきたい
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10					
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	9	1				
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	10					
14 個人情報に十分注意しているか	7	2		1			
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	5	5			・されているかもしれないが思い出せない。 ・感染症の通知は見たことがある。	・マニュアルについての説明を徹底していく
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4	4		2		・定期的に避難訓練を実施している
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	10				・利用日をとても楽しみにしております。近頃は時々の利用ですが、スタッフの方がいつもあたたかく迎えて下さり、とてもリラックスできる場なのだと思います。	
	18 事業所の支援に満足しているか	10					

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成31年 3月31日

事業所名 第3キッズゆうあい

保護者等数(児童数) 14 回収数 11 割合 78 %

	チェック項目	はい	どちらとも いいない		いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
			はい	いいえ				
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11						
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	11						
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	9	2					・平屋の住宅を事業所として活用しており玄関アプローチに階段がある。肢体不自由の利用者がいないために、不都合はほぼない。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	11						
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	10	1					
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	6	1				・児童館との交流など、障がいのない子どもと接する機会を増やしていく。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	10	1					
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	10	1					
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	11						
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	3	1		もう少し増えてもいいと思います。		・2018年度から保護者参観日の日を1年に1回設けており、今後もこのような機会を増やしていきたい
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	1					
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	11						
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	11						
	14 個人情報に十分注意しているか	11						
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	10	1					
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	11						
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	10	1					
	18 事業所の支援に満足しているか	11						

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成31年 3月31日

事業所名 第4ジュニアゆうあい 保護者等数(児童数) 27 回収数 18 割合 66 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	13	5				
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	14	4				
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	11	5	2		・建物の構造上不可能だと思うので仕方ないと思う。 ・普段送迎をお願いしているのであまり様子が分らないですが、怪我などしないように室内を整えていると思います。 ・対象のおさんがおられないのかな?と思います。	・2階建ての住宅を事業所として活用しているため、玄関に段差がある。肢体不自由の利用者がいないために、不都合はほぼない。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	16	1		1		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	15	2		1	・個人での活動と集団での活動、どちらも工夫されています。 ・色々な体験ができて良かった。家ではできないことも、ゆうあいのできるようになって嬉しく思います。	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	8	5	1	・親としては、この項目は特に重要視していません。 ・地元の人との関わりがもてるような活動があると良い。	・障がいのない子どもと接する機会を増やしていく。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	15	3			・児発管から初回の説明で丁寧に話を伺いました。	
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができていますか	16	2			・その日その日で活動した事をきちんと説明し、今の本人の課題について親はもちろん、本人とも話し合ってくれています。	
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	15	2	1		・連絡ノートや、送迎時に親身になって丁寧に接していただき感激しています。	
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	11	6		1	・参加した事がないから分からない。 ・まだ参加した事がないので、機会があればぜひ参加したい。 ・今年は2回あったが、他の保護者の方と話ができ、良い機会だった。	・2018年度、保護者参観日の日を1年に2回設けており、今後もこのような機会を増やしていきたい
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	13	5				
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	18					
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	18				・会報をいつも楽しく拝見しています。 ・毎月のゆうあい通信を楽しみにしています。	
	14 個人情報に十分注意しているか	16	1		1		
非常 時等 の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	13	3	1	1	・されているかもしれないが覚えがないので分からない。 ・一部のみ説明を受けた。	・マニュアルについての説明を徹底していく
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	13	3		2		・定期的に避難訓練を実施している
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	18				・とても楽しみにしています。	
	18 事業所の支援に満足しているか	18				・職員の対応が親切丁寧で大変満足している。	

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月31日

事業所名 第1キッズゆうあい

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	4		・日によって利用児童の数に多少があり、所外活動を取り入れている	・利用児童の多い日には一部の児童を屋外での活動にするなど、スペースが狭いことでのストレスを与えないようにしていく。
	2	職員の配置数は適切である	3	3	3		・制度で定められた運営上必要とする職員を配置した上で、1人の加配職員を配置している。それでも日によって利用者が多く、職員体制が厳くなることもある。さらなる職員配置や同法人内他事業所からの応援対応などにより、十分なサービス水準を保っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	5		・事業所が2階にあり屋外階段でアプローチするが、往來しづらく雨の日は階段が滑りやすく心配。2019年6月に屋外階段上に雨よけの屋根を設置予定。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	3			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2			・昨年度もホームページで公開しているが、そのことが職員、利用者には十分に伝わっていなかった。ホームページでの公開を職員、利用者にはしっかり伝えていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3			・臨床発達心理士の外部アドバイザーを定期的に招き、療育や環境についてアドバイスをいただいている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			・年間を通して計画的に研修を実施している。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	1			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	4			・アセスメントシート項目の見直しを検討する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2		・繰り返し行うことで定着化を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	2			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	2			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	1			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	2		・支援終了後は時間が十分ではないため、児発管が個別に担当スタッフに対してのヒアリングを行い記録をしている。職員全体では翌日の午後一番に振り返りを実施している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	2			
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	3			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	3			
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6					

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	1		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	2		・対象となる利用児童がいない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	1		・対象となる利用児童がいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5	3	・公民館に隣接しているため、地域も子と触れ合う機会がある。 ・隣接する公民館での活動を推進し、障がいのない子どもと接する機会を増やしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2	2	・定期的に開催される松江市内の放課後デイ事業所による児発管会議に参加
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	2	2	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	1		・2018年度は保護者参観日を1回実施。このような機会を増やしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			・月に1回のキッズ/ジュニアゆうあい通信の発行、毎日の日常記録を通じた情報提供、年に1回の利用者単位の写真集発行
	35	個人情報に十分注意している	8	1		・会議の前に声を掛け合っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	2		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2	1	・近隣の高齢者施設との交流を図っている。 ・2019年度は地域に開放したゆうあい祭りを予定
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	1		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月31日

事業所名 第2ジュニアゆうあい

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	2			
	2	職員の配置数は適切である	5	3			・制度で定められた運営上必要とする職員を配置した上で、1人の加配職員を配置している。それでも日によって利用者が多く、職員体制が厳くなることもある。さらなる職員配置や同法人内他事業所からの応援対応などにより、十分なサービス水準を保っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	5		・2階建ての住宅を事業所として活用しているため、玄関に段差がある。肢体不自由の利用者がいないために、不都合はほぼない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1		・アンケートの実施がなされ、業務改善に取り入れている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	5	1		・昨年度もホームページで公開しているが、そのことが職員、利用者には十分に伝わっていない。ホームページでの公開を職員、利用者にはしっかり伝えていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	2		・臨床発達心理士の外部アドバイザーを定期的に招き、療育や環境についてアドバイスをいただいている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	1		
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	1			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1		・ミーティングなどにより職員が共通の認識ができていく。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1		・都度見直しを行い、新たな目標設定がしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1		・利用児童の体調や日々の様子をミーティングをして情報共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1		・日誌を回覧・ミーティングの実施。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1		・日誌や目標記録をし、改善につながっている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	1		・適宜行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	3			
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	3				

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	1			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	5		・対象となる利用者がいない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	4	1		・中学生が主体のため対象となる利用者がいない
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	3	1		・中学生が主体のため対象となる利用者がいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	3		・様々な交流の機会を模索していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	3	3		・定期的に関催される松江市内の放課後デイ事業所による児発管会議に参加
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	3	1		・事業所の療育での成果を、随時保護者にお伝えしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	2			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	3			・2018年度は保護者参観日を1回実施。このような機会を増やしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	1			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1		・毎月発行している	・月に1回のキッズ/ジュニアゆうあい通信の発行、毎日の日常記録を通じた情報提供、年に1回の利用者単位の写真集発行
	35	個人情報に十分注意している	6	2			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1			
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	4			・2019年度は地域に開放したゆうあい祭りを予定
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	2		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	2			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	1			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	4			・おられない。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	2	1			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月31日

事業所名 第3キッズゆうあい

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	1	1		・利用人数が多い日においては、建物前の庭の活用や、近隣公園の活用などにより手狭感の解消を図る。
	2	職員の配置数は適切である	1		3		・制度で定められた運営上必要とする職員を配置した上で、1人の加配職員を配置している。それでも日によって利用者が多く、職員体制が厳くなることもある。さらなる職員配置や同法人内他事業所からの応援対応などにより、十分なサービス水準を保っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		2	2		・平屋の住宅を事業所として活用している。玄関アプローチに階段はあるが肢体不自由の利用者がいないために、不都合はほぼない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	2			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	2			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1			・昨年度もホームページで公開しているが、そのことが職員、利用者には十分に伝わっていない。ホームページでの公開を職員、利用者にはしっかり伝えていく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2			・臨床発達心理士の外部アドバイザーを定期的に招き、療育や環境についてアドバイスをいただいている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4				
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	2			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	1	3			・スタッフ間で常に話し合いをしながら、よりよいプログラムをつくっていく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	3			・スタッフ間で常に話し合いをしながら、課題設定を行っていく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1			・児発管が法人業務に時間が割かれている実情がある。児発管補佐に権限を一定程度移した上で、スタッフ間でのミーティングを通じて情報共有をしっかりと行う。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4				
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2	2			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	1			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	1			
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	2				

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	1		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4		・対象となる利用者がいない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	2		・対象となる利用児童がいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2		2	・児童館などでの交流などを推進する
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		4		・定期的開催される松江市内の放課後デイ事業所による児発管会議に参加
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3		・事業所の療育での成果を、随時保護者にお伝えしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	2		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	1		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1		・月に1回のキッズ/ジュニアゆうあい通信の発行、毎日の日常記録を通じた情報提供、年に1回の利用者単位の写真集発行
	35	個人情報に十分注意している	4			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3		・2019年度は地域に開放したゆうあい祭りを予定
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	3		・マニュアルの徹底を図っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	1	1	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	1		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月31日

事業所名 第4ジュニアゆうあい

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1		5		・身体のかな中学生以上の利用者がいる中、手狭感否めないが、利用人数が特に多い日においては屋外活動などを組み合わせて、その解消を図っていく。
	2	職員の配置数は適切である	1		4		・制度で定められた運営上必要とする職員を配置した上で、1人の加配職員を配置している。それでも日によって利用者が多く、職員体制が厳くなることもある。さらなる職員配置や同法人内他事業所からの応援対応などにより、十分なサービス水準を保っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	1	3		・2階建ての住宅を事業所として活用しているため、玄関に段差がある。肢体不自由の利用者がいないために、不都合はほぼない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4			・臨床発達心理士の外部アドバイザーを定期的に招き、療育や環境についてアドバイスをいただいている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6				
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6				
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	3			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	3			
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1				

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	4	1	・対象となる利用者がいない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	4		・中学生高校生が主体のため対象となる利用者がいない
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	4		・中学生高校生が主体のため対象となる利用者がいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5	1	・障がいのない子どもたちとの交流の機会づくりを模索していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		3	1	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3	2	・事業所の療育での成果を、随時保護者にお伝えしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	2		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	2		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			・月に1回のキッズ/ジュニアゆうあい通信の発行、毎日の日常記録を通じた情報提供、年に1回の利用者単位の写真集発行
	35	個人情報に十分注意している	6			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	1	・2019年度は地域に開放したゆうあい祭りを予定
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	4	1	・マニュアルの徹底を図っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	2		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	1		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	3		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1		